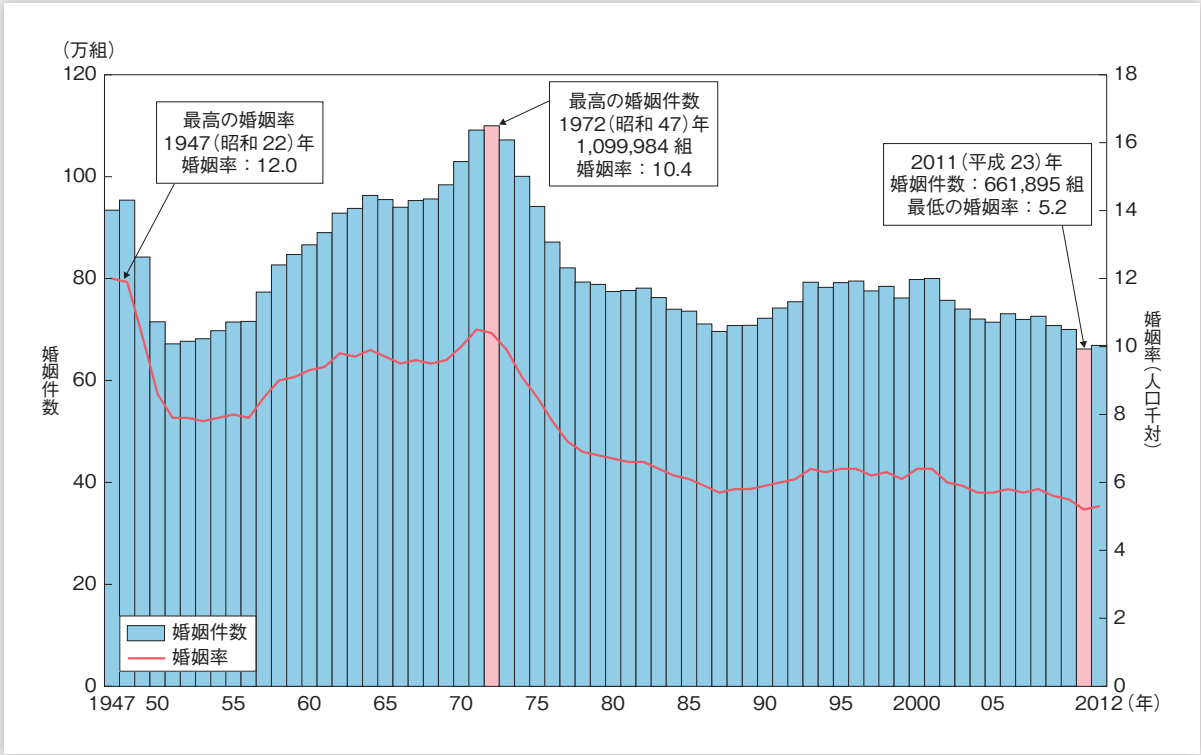
3 婚姻・出産等の状況

未婚化・非婚化の進行

婚姻件数は、第1次ベビーブーム世代が25歳前後の年齢を迎えた1970（昭和45）年から1974（昭和49）年にかけて年間100万組を超え、婚姻率（人口千対）もおおむね10.0以上であった。その後は、婚姻件数、婚姻率ともに低下傾向となり、1978（昭和53）年以降2010（平成22）年までは、年間70万組台（1987（昭和62）年のみ60万組台）で増減を繰り返しながら推移してきたが、2011（平成23）年は661,895組と過去最低となった。2012（平成24）年は、668,869組（対前年比6,974組増）と前年より増加した。婚姻率も5.3で前年の5.2から0.1上回ったが1970年代前半と比べると半分近くの水準となっている。

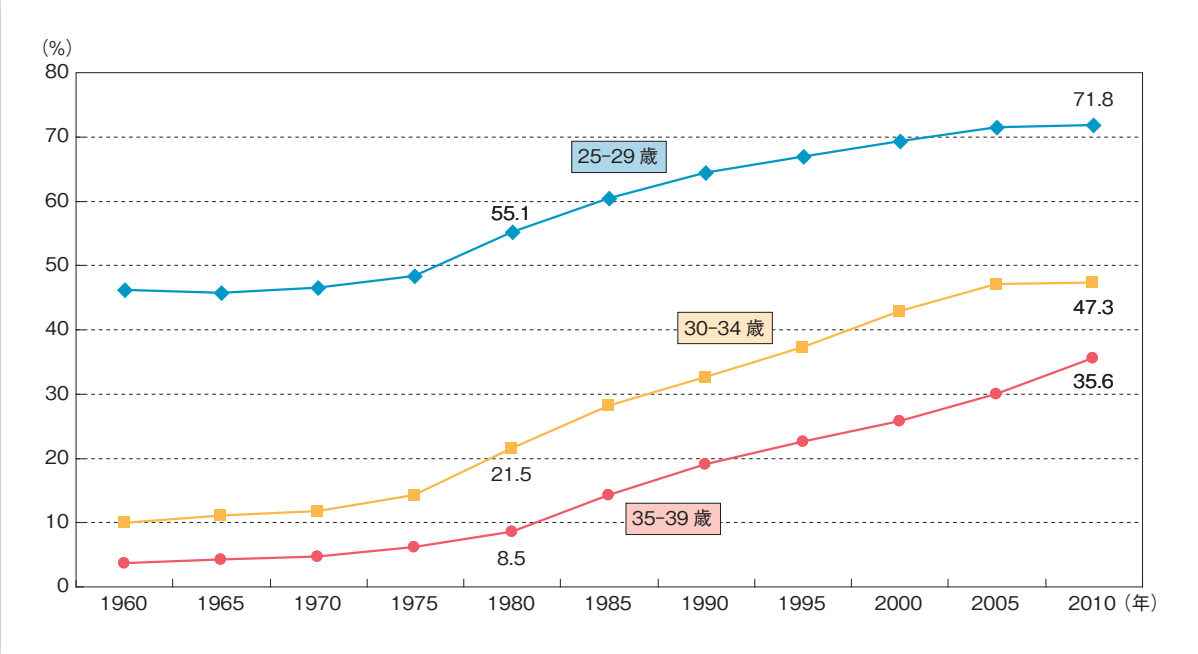
また、2010（平成22）年の総務省「国勢調査」によると、25～39歳の未婚率は男女ともに引き続き上昇している。男性では、25～29歳で71.8%、30～34歳で47.3%、35歳～39歳で35.6%、女性では、25～29歳で60.3%、30～34歳で34.5%、35～39歳で23.1%となっている。さらに生涯未婚率を30年前と比較すると、男性は2.6%（1980（昭和55）年）から20.1%（2010年）、女性は4.5%（1980年）から10.6%（2010年）へ上昇している。

第1-1-5図　婚姻件数及び婚姻率の年次推移



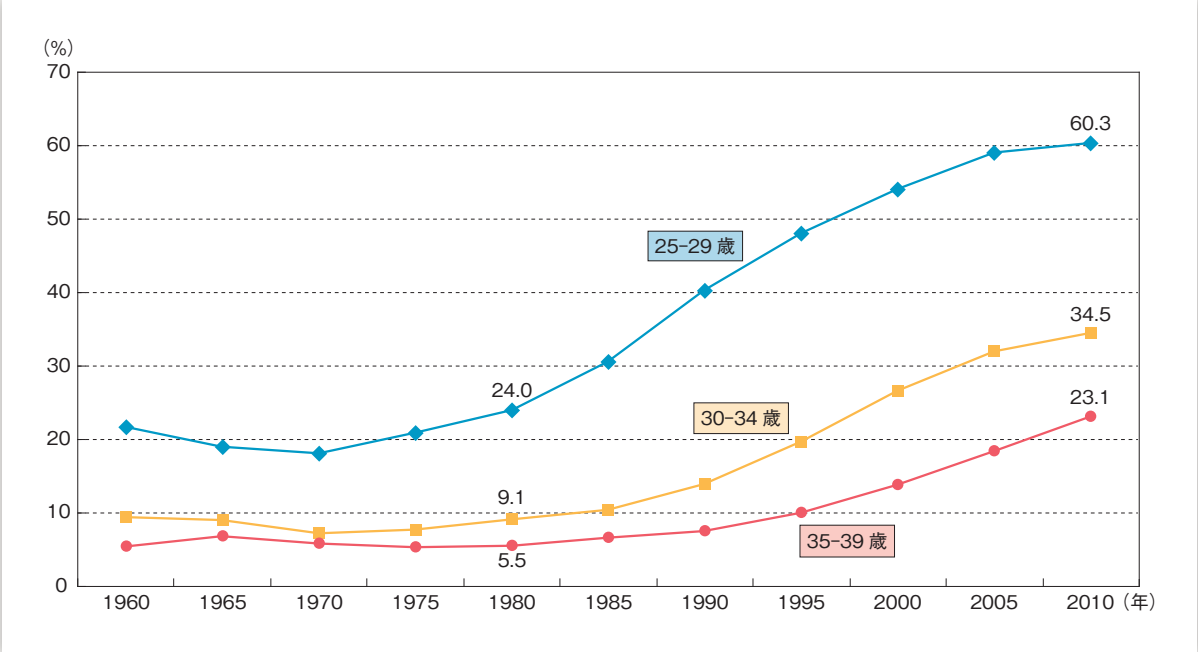
資料：厚生労働省「人口動態統計」（2012年）

第1-1-6図　年齢別未婚率の推移（男性）



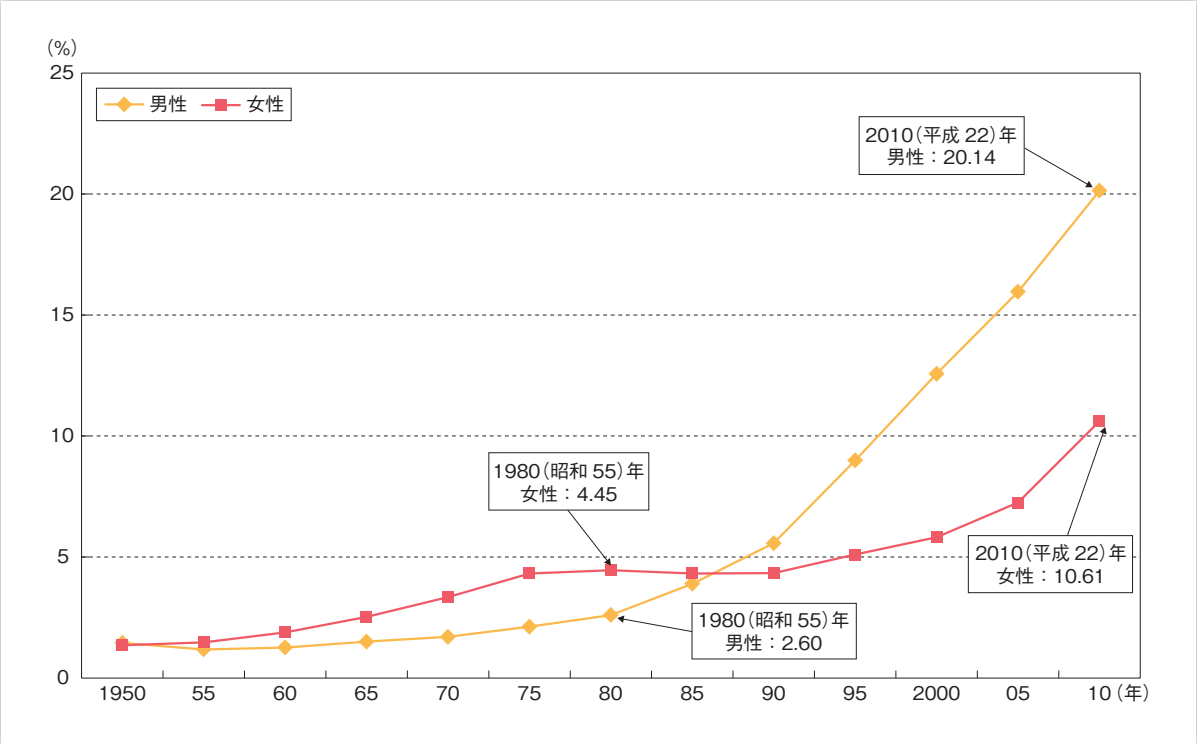
資料：総務省「国勢調査」(2010年)
　注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

第1-1-7図　年齢別未婚率の推移（女性）



資料：総務省「国勢調査」(2010年)
　注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

第1-1-8図　生涯未婚率の年次推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2014」
注：生涯未婚率は、45～49歳と50～54歳未婚率の平均値であり、50歳時の未婚率

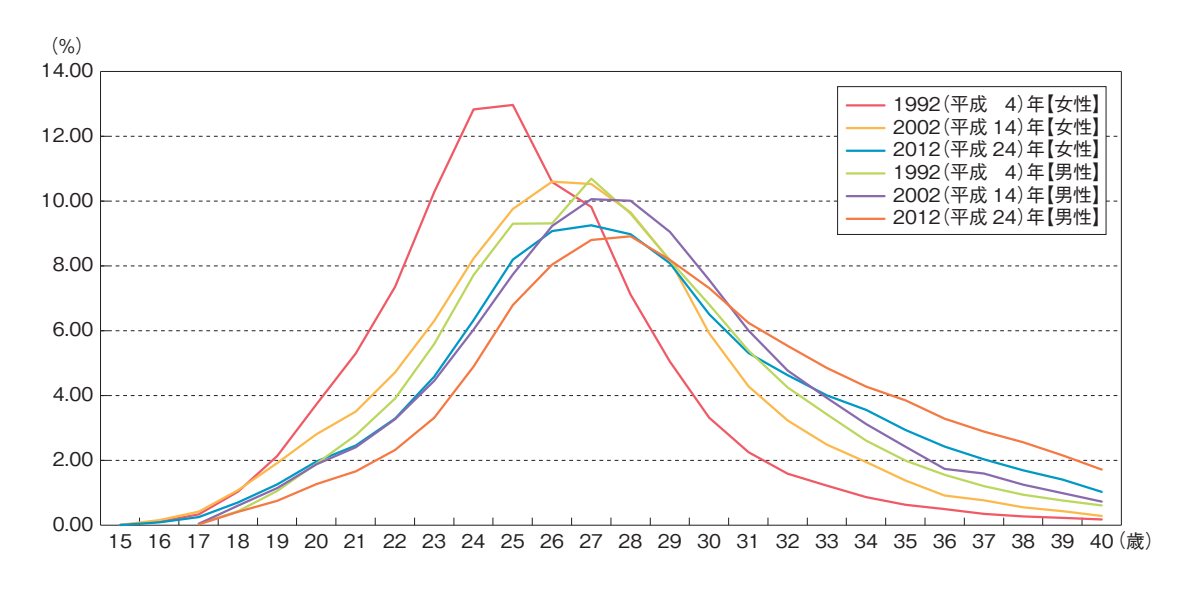
晩婚化、晩産化の進行

日本人の平均初婚年齢は、2012年で、夫が30.8歳（対前年比0.1歳上昇）、妻が29.2歳（同0.2歳上昇）と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が進行している。1980年には、夫が27.8歳、妻が25.2歳であったので、ほぼ30年間で、夫は3.0歳、妻は4.0歳、平均初婚年齢が上昇していることになる。

また、初婚の年齢（各歳）別婚姻件数の構成割合を1992（平成4）年から10年ごとにみると、夫は1992年と2002（平成14）年を比較すると大きな差異はないものの、2012（平成24）年において、妻は2002年及び2012年においてピーク時の年齢が上昇するとともに、その年齢が占める割合は低下している。また、夫妻ともに高い年齢の割合が増加している。

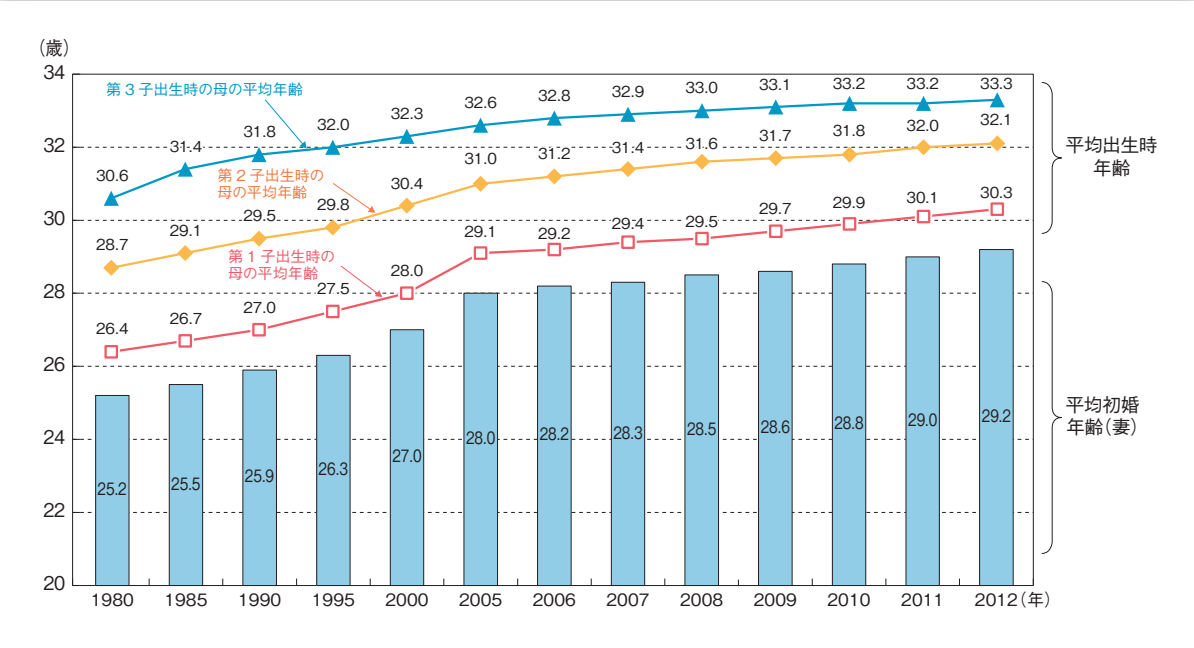
さらに、出生したときの母親の平均年齢をみると、2012（平成24）年の場合、第1子が30.3歳、第2子が32.1歳、第3子が33.3歳であり、前年に続いて第1子出産年齢が30歳を超えた。

第1-1-9図　初婚年齢別婚姻件数の割合



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成
　注：40歳までの初婚件数を100とした場合の各年齢別の割合

第1-1-10図　平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の年次推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」